

# 奥羽大学報



朝霧につつまれる「ふれあいの像」(山田良定作)

## 目次

無垢サロン／藤井史郎文庫の創設	2
スポット学友会	3
歯学部保護者懇談会／薬学部保護者懇談会／ 歯科医学教育者ワークショップ／新カリキュラム第一学年初年次教育	4
秋のオープンキャンパス／高校生の大学訪問／ 薬学部キャリアガイダンス／薬学部英会話短期集中コース	5
奥羽大 now／されど公開講座～受講者のアンケートから～	6
大学院特別研修セミナー／平成 26 年度第 4 回大学院特別研修セミナー／ 第 58 回奥羽大学歯学会／自著を語る	7
国際学会	8
歯学部研究紹介／薬学部研究紹介	9
MD アンダーソンがんセンター臨床留学報告／ 平成 26 年度臨床教育力養成研修会／臨床教育セミナー特別講演会／ 日本接着歯学会卒業研修セミナー	10
本学関係新聞記事案内(平成 26 年 4 月～11 月)	11
新任教授紹介／同窓会だより／同窓生のひろば	12
人事	13
平成 27 年度入学試験日程	14



## 認証評価

歯学部長 大野 敬

大学認証評価は、平成16年から教育の質の保証と向上のために、①大学等の質を保証する、②公表することによって社会からの評価を受ける、③自らの改善を図る、ことを目的に義務づけられ、大学全体としての機関別認証評価で第2巡目に入っている。第2巡目の変更点により、学修成果や各大学の自主的・自律的な質保証（内部質保証）を重視した評価などに発展し、内部質保証のために現状のFD活動、PDCAサイクルによる評価・改善、3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）、学修成果の検証と改善、地域との共生など多くの取り組みや見直し・改善などが求められている。

これに対し、分野別認証評価である歯学教育認証評価も始動した。平成20年、歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議からフォローアップ調査を経て歯学教育の質向上のための施策の方向性が検討され、①歯学教育の質の向上によって質の高い優れた歯科医師が養成され、②教育活動等の公表によって社会的評価を踏まえた大学の自主的な改革が促進され、③歯学教育認証評価の基盤構築によって一定水準以上の教育の質を保証することができるとまとめられた。平成24年度から歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究が開始され、平成25年3月に公開シンポジウム「日本の歯学教育認証評価のあり方について」が行われ冊子としてまとめられている。その目的は、①国際標準の教育が実践され、②国際標準を超えるグローバルかつ優れた歯科医師を養成し、③我が国の歯学教育の国際的な質の担保を図ることである。

大学認証評価そして歯学教育認証評価のデータベース化に伴い、教育機関が選ぶ時代から選ばれる時代に変遷し、進学希望者や国民から一律の基準で大学が評価される時代となった。

認証評価は、狭い知識や見聞にとらわれた自分たちの居心地の良い教育環境に浸っている状況を打破し、歯学教育認証を飛躍する原動力として今から実践していくことが必要である。また今以上に開かれた大学へと変貌するチャンスでもある。奥羽大学の建学の精神（理念）と歯学教育の特色を生かしながら、目の前の課題を一つ一つと解決していく手段として認証評価を受審することが、受験生や国民に「奥羽大学に行きたい」「奥羽大学で学びたい」と思わせる価値を創造させ、歯学教育の質の向上が図られ延いては国民へ最良の歯科医療が提供できると確信している。

## 藤井史郎文庫の創設

藤井史郎教授（歯学部）は本年8月8日に亡くなられた。本学への着任は平成9年4月、文学部が廃止となる平成19年3月まで文学部フランス語フランス文学科に、その後は歯学部の「英語」を担当された。

専攻はフランス文学、なかでも20世紀フランスのカトリック作家、フランソワ・モーリヤックの研究で、たくさんの論文や翻訳を残された。ちなみにモーリヤックは1952年にノーベル文学賞を受賞した。

藤井先生の研究室には、約6千冊の本が残されていた。モーリヤックに関係する本はもちろんのこと、フランス文学・語学以外にも、芸術、宗教、哲学、小説など広い分野の本が所狭しと積み上げられ、その部屋の様子からは、研究者の惜しむことのない努力を

感じさせられた。読書家であり愛書家でもある先生は、さぞかし眼を赤くして本を読まれたことだろう。

このたびこれらの図書は藤井先生のご遺族より図書館に寄贈された。図書館では、モーリヤック関係、フランス文学・語学、一般教養書など洋合わせて約2,800冊を受け入れし、「藤井史郎文庫」として後々まで保存し、活用することになった。本学図書館との重複本や文庫本などは、希望する方にお分けすることとした。

これから図書の整理が始まる。「藤井史郎文庫」の誕生により一研究者がたどった研究の軌跡を偲ぶことができる。



齋藤篤志  
(実行委員長 薬学部3年)

## 第22回奥羽祭 - colorful -



10月18日(土)、10月19日(日)に、第22回奥羽祭を無事開催することができました。当初、本務を引き継ぐにあたり、わからないことがたくさんあり、戸惑いと不安を感じていましたが、昨年と比べ実行委員の総数が増えたことにより、活気のある委員会となり、お互いに支え合いながら頑張ることができました。4年生・3年生と一緒に1年生を引っ張っていかうとする2年生や、それに付いて行こうと一生懸命に動く1年生の姿に、上級生として自然と気の引き締まる思いでした。こうして実行委員が一丸となり、大きな問題もなく奥羽祭を迎えることができました。

奥羽祭の2日間とも晴天で気持ちよく活動することができ、この祭を成功させようと、全員が一生懸命になって自分の役割を果たしていました。その結果、おいでくださった皆さまのたくさんの笑顔に出会え、無事幕を閉じることができました。祭りが引けたあとは、準備から当日までの思い出話や、お互いのユニフォームにメッセージを書き合いながら達成感を分かち合うことができ、とても嬉しく思いました。

末筆ながら、ご協力くださった多くの方々に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

### 開催イベント

模擬店

室内展示 (薬学部棟)

Special Event 重盛さと美トークイベント (野外特設ステージ)

ロック軽音楽部ライブ (第2講義棟)

茶道部お茶席 (研修棟)

オープンキャンパス・個別進学相談会



### 歯学部保護者懇談会

10月18日(土)、各学年の保護者懇談会が開催された。この日は昨年と同様に奥羽祭も行われていたため、大学内が学生と保護者、その他来学者で活気にあふれていた。

懇談会には、91組(113名)の保護者が参加され、特に第6学年にあつては、37組(46名)と参加者の半数近くを占めていた。懇談内容は、国家試験合格のための日頃からの習慣付けや勉強方法などの相談が多く見受けられた。



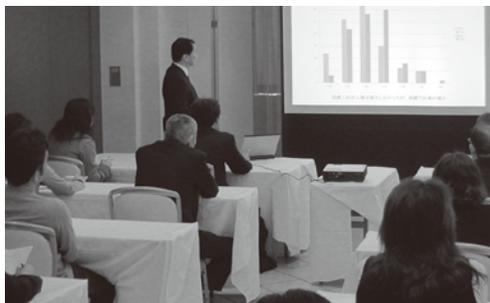
### 薬学部保護者懇談会

10月25日(土)午後1時より、郡山ビューホテルアネックスにおいて、薬学部4年生及び6年生の保護者懇談会が開催された。それぞれの学年に分かれて、学年主任(4年：大島光宏教授、6年：柏木良友教授)より教育の現況説明があり、その後、合流した懇親会の席で、教員と保護者が学生の勉学状況等について話し合った。

4学年：CBT合格に向けた対策委員会の取り組みについて紹介するとともに、実力試験や模擬試験の成績を昨年と比較して示した。その後個別成績を開示し、家庭におけるサポートもお願いした。懇親会では、保護者と配属先教員とがなごやかに懇談した。

6学年：まず初めに今年3月に実施された国家試験の結果と今年度の指導方針、国家試験合格のためのロードマップについて説明を行った。その後、国家

試験戦略委員会、国家試験対策委員会によるこれまでの具体的な取り組みについて紹介するとともに、昨年度国家試験に合格した学生の模擬試験の成績を示しながら、今後行われる模擬試験の目標値について説明を行った。懇親会でも、各学生の現在の成績について、保護者と配属先教員が懇談した。



### 歯科医学教育者ワークショップ

平成26年度のワークショップはタイトルを「打倒108回」とし計3回行われ、第107回国家試験の結果から解答率の悪い問題を教員全員で分析し、本学の弱点を洗い出した。

第1回(6月6日(金))は必修問題を中心に討議し、第2回(8月1日(金)、2日(土)の2日間)からは臨床研修医の参加により現役に最も近い立場での意見が出された。第3回(10月3日(金))では全国平均よりも有意に高い正答率の問題も加え開催し、各回とも活発な討議が行われた。ワークショップで抽出された記録は各回終了後に参加者全員へ配信し、弱点を改善するための方策に活用される。

### 新カリキュラム第一学年初年次教育

歯学部第1学年では、本年度後期より新たに初年次教育講座を開講した。本講座は歯学教育の入口であり、その中で、物を観る・話を聞く・理解し自分の意見をまとめる・他人とコミュニケーションを取る、を意識させることを目的に、以下の3部から成り立っている。

①医療事故・感染の講義とチーム医療研修を意識した附属病院内見学、②学内外講師による講演、本年度は学外講師として東海林徹氏(株日進薬品学術情報部学術特命室長、元奥羽大学薬学部教授)、寿泉堂総合病院歯科口腔外科部長の小板橋勉氏をお願いした。③第5学年の学生とのディスカッション形式の研修。歯学部第1学年主任担当の馬場麻人教授は「実り多いものになるように努めたいので、皆様のご指導、御協力をお願いしたい」と語っている。

## 秋のオープンキャンパス

10月19日(日)、25日(土)、秋のオープンキャンパスを開催した。19日(日)は奥羽祭が開催されており、参加者たちは個別相談の後に様々なイベントに参加して本学での一日を楽しんでいた。

本年最後の開催日となった25日(土)は、各学部の紹介、入試の概要、面接や小論文(歯学部)、新設された特待生選抜の説明に加え、歯学部は附属病院、薬学部は模擬病院薬局などキャンパス見学が行われた。



## 高校生の大学訪問

10月23日(木)、福島県立石川高等学校の1年生40名が本学を訪れた。図書館の見学や、在学生と一緒に薬学部2年生の有機合成化学の講義を体験した。また、メモリーでの学食体験に続き、本学薬学部2年生に在籍する同校卒業生の秋山香里さんから学生生活について説明があった。高校とは異なった施設や学問の深さに触れながら、本学の雰囲気を楽しんでいるようであった。



## 薬学部キャリアガイダンス

11月18日(火)、薬学部棟534教室において、5年生を対象としたキャリアガイダンスを実施した。歯学部の唐沢明講師より自己PRを中心に自己分析シートを用いたアピールポイントの発見方法や、人事担当者の興味を引くエントリーシートの書き方など、就職活動へ向けた実践的な指導が行われた。

## 薬学部英会話短期集中コース

9月9日(火)から9月12日(金)まで、福島県岩瀬郡天栄村のプリティッシュヒルズにおいて、薬学部2年生を対象とした「英会話短期集中コース」を実施した。この研修会は、英会話と英国文化を学ぶための合宿研修として昨年度から実施している。研修地プリティッシュヒルズは英語と英国文化を学ぶための研修施設で、外国人講師による多種多様な講座を受講することができる。「英会話短期集中コース」は本年度は希望者16名が参加し、今回は英会話演習8クラスと、料理やテーブルマナー、英国発祥のゲームであるスヌーカーなど英国文化を学ぶための5クラスを受講した。

すべてのクラスが英語で行われるだけでなく、教室外での現地スタッフや本学引率教員とのやり取りもすべて英語という研修環境は、国内では他に例を見ない優れたものである。参加者はみな積極的に研修に取り組み、貴重な経験を得ることができた。



## 奥羽大 now

### ラジオの音に心を馳せて!

皆さん! ココラジって、ご存知でしょうか!

朝早くから、79.1MHzの周波数に乗せて、いつも元気にスタートしている地域密着型のコミュニティ放送であるFMラジオの事です。

毎週月曜日の15時20分からは、本学薬学部多根井先生による「おクスリの話」という番組が流れています。水曜日と金曜日は再放送となっています。

この番組は、学生とリスナーの皆様と一緒に、クスリと健康について考えていく番組です。

最近の“ホット”な話題が満載ですので、たまには、ラジオのスイッチをONしてみませんか! 何か新しい発見ができそうな予感がします。

### 歯学部1年生のボランティア清掃

歯学部第1学年の学生は、初年次教育講座のプログラムの一環として11月10日(月)にボランティア清掃を行いました。

大学前の県道をセブンイレブン奥羽大学前店から東へ、そして郡山市立行徳小学校の東面、北面を経て本学東門へ至る道において空き缶、ペットボトル、可燃ごみなどを回収しました。

数少ない屋外活動でしたが、幸い天気にも恵まれ、教室から出て皆楽しみながら作業をしていたようです。いつもとは違った行動で、何か新鮮な気分になったかな。



### されど公開講座～受講者のアンケートから～

本年度の奥羽大学公開講座は9月13日から10月11日にかけての土曜日、計4日間の8講座が開講された。総合テーマは「奥羽大学発健康宣言2014」。本学の特色を活かしての内容であった。参加者からの感想などは各講座のアンケートから知ることができる。

受講者数は毎講座30～50名。アンケートに回答された方は延べ246人であった。年齢構成をみると70代以上が46%、60代33%、50代5%、40代10%。男女別では男72%、女28%。60代以上の人の健康志向は当然のこととして、毎回同じ顔触れの、熱心な参加者が多いのも特徴的だ。講座の難易度では、「ちょうどよい」74%、「難しい」11%、「易しい」9%、「その他」6%。イメージとしてやや難しいと思われる医療系のテーマにしては程よいといったところ。講師の「わかりやすい説明」も効を奏していたと思われる。

受講者の全般的な感想は概ね好評だ。いくつかの感想を示してみると、「とても興味深く面白い」「写真が多いのでわかりやすい」「すばらしい教授が多数おられるので、今後も続けてほしい」「専門的で難しかった。専門用語はやさしく解説を」「毎回楽しみだ」など。また今後の希望として、「放射線」「認知症」「先進医療」「iPS細胞」などのキーワードがみられる。いずれにしても受講者の「知」を知る楽しさ、教養の向上を図りたいなどの意欲には敬服する。

大学は、生涯教育の一翼を担うものとして、地域社会の知的要求に応じていく使命がある。大学のイメージアップや大学の「知」を社会に還元していくことが要請されていると言えそうだ(安藤 勝)。

### 大学院特別研修セミナー

9月5日(金)、本年度第1回大学院特別セミナーとして、広島大学大学院歯歯薬保健学研究院の高田隆教授による講演「口腔疾患と全身の健康との関わり Pg 歯性感染と非アルコール性肝炎(NASH)との関係を中心に」が開催された。この講演で高田教授は歯周病原菌がどのような機序でNASHの発症・伸展に関与しているかについて分かりやすく解説され、講演後には高田教授と奥羽大学教員と間で活発な討論が行われた。

第2回大学院特別セミナーは11月14日(金)、「歯周組織再生のトレンド」をテーマに開催された。講師は東北大学大学院歯学研究科歯内歯周治療学分野の島内英俊教授で、歯周病の病態、口腔内の特殊性、歯周組織を構成する複数の細胞群の説明と従来の tissue engineering の概念では歯周組織再生が上手くいかない理由が説明された。

さらに、細胞治療の限界とコストの問題、現在実際の臨床で行われている治療法が解説され、再生医療の安全性と実用性を勘案すると、スキャホールドとシグナルの工夫が最も可能性が高いことが示された。



第一回大学院特別セミナー

### 平成26年度第4回大学院特別研修セミナー

11月14日(金)、臨床講義室において、大学院特別研修セミナー「歯科基礎医学教育におけるICTとメモリーツリーを用いたチーム基盤型学習システム」が開催された。講師は日本歯科大学新潟生命歯学部葛城啓彰教授で、チーム基盤型学習に取り組んだ経過から、その有用性や実践する上での注意点なども含まれた幅広い内容の講演であった。参加者からも多くの質問や意見が述べられた。

### 第58回奥羽大学歯学会

11月8日(土)、臨床講義室において、奥羽大学歯学会が開催された。当日は、来年3月の学位取得を目指した大学院生による学位口演が7演題行われた。今回の口演は、昨年度の大学院研究経過発表会における発表・質疑応答を踏まえたこともあって、学位研究にふさわしい充実した内容であった。発表後、会場の参加者からの様々な質問に対して、発表した大学院生からは的確な返答があった。また、本学と韓国慶熙大学の学生間における国際交流について、歯学部5年生の松葉雅俊君が発表した。



学位口演をする大学院生

### 自著を語る

#### 『カラー図解内臓のしくみ・はたらき事典』 野上晴雄 山本正雅 山口俊平 共著 西東社

「内臓のしくみ・はたらき事典」は、カラー図解シリーズ事典の一つとして編纂され、西東社により2011年に出版されました。現在、改訂が重ねられ、図の鮮明さと説明の簡潔さにより好評を得ています。カラー図解シリーズは35万部を達成しており、「内臓」編は医療関係者・医療従事者など、特に学生に広く利用されています。「内臓」というタイトルから五臓六腑だけの事典をイメージしがちですが、内容は、第1章細胞から始まり、第2章組織、第3章消化器系、第4章循環器系、第5章呼吸器系、第6章泌尿生殖器系、第7章内分泌系・皮膚・免疫系、第8章感覚器系と、一般的な解剖に関する項目がコンパクトにまとめられています。

三人の共著者は友人同士であり、野上晴雄(筑波大学解剖学教室)と山口俊平(株式会社日本生物製剤)は、ともに慈恵医科大学第二解剖学教室にて教育・研究をした経験が原動力になったという背景があります。学生の間で「カミソリの野上」と異名の高かった先生は、切れ味の良さを發揮し、本書をうまくまとめられています。赤シート添付により、重要な語彙を覚えらる工夫がなされ、試験勉強にも便利です。本学図書館に所蔵していますので、仕事や勉強に役立てて欲しいと願っています(薬学部生化学分野 教授 山本 正雅)。



## 国際学会

## 第50回欧州糖尿病学会年次学術集会

## 50th Annual Meeting of the European Association for the study of Diabetes (EASD)

本年9月15日から19日にオーストリア・ウィーン市で開催された第50回欧州糖尿病学会年次学術集会に参加し、発表してきました。欧州糖尿病学会は、米国糖尿病学会とともに世界の双璧をなす糖尿病研究の最先端の学会であります。本学薬学部で行った仕事が採択されましたことはまことに光栄であります。演題名は和訳すると「インクレチン薬はレムナントリポ蛋白で負荷された培養ヒト腎メサンギウム細胞のTGF- $\beta$ とタイプIVコラーゲンの発現を抑制し、ヒト2型糖尿病患者の腎症を予防・改善する」です。近年、糖尿病の増加とともに、その合併症である腎症、最終的には人工透析にいたるケースが増加し、医学上大きな問題となっています。3年前に登場した新しい糖尿病薬であるインクレチン薬が、血糖・血中中性脂肪だけでなく、直接腎臓に作用して腎障害を予防・改善するという事を見出しました。以前、同学会で徹底咀嚼が食後インクレチン分泌を増加させることを

発表しましたが、今後もその分泌機序・作用機序の解明を目指したいと思っています。

ウィーンはまさに音楽の都でした。国立ウィーンオペラ座でオペラを鑑賞することもできました。まことに芸術の極みと言えるもので、深く感銘を受けました。

(薬学部医療薬学分野 教授・学部長 衛藤雅昭)



### 第3回 Japan-Korea Joint Workshop on Complex Communication Sciences (JKCCS'14) 「CCS-NetSci 合同ワークショップ」に参加して

本年10月27日～28日に韓国海雲台で開催された複雑コミュニケーション科学と情報ネットワークの合同ワークショップ(JKCCS'14)にて「The Optimum Approximation of a Matrix-Filterbank based on a Polar-Decomposition in the Complex Frequency Domain」というタイトルで研究発表を行いました。

発表内容は、断片的に得られたデータから元の信号の全体像を近似的に復元する問題についての数学的証明です。扱う信号と検出器および復元器の全てが有界線形作用素として数学表現できる場合に、幾つかの自然な条件下で、近似誤差に対する任意の上限評価尺度を一斉に最小化する最適な近似法の数学的証明です。有界線形作用素は任意階のテンソルも含むので、脳梗塞やアルツハイマー型認知症の

診断に用いるMRI拡散テンソル画像の高画質化への応用などが期待できます。

(薬学部薬学情報科学分野 講師 木田雄一)



歯学部研究紹介

破骨細胞－骨細胞間シグナリング機構に関する研究  
 ー骨代謝制御機構の解明を目指してー

口腔病態解析制御学講座 助教 鈴木礼子

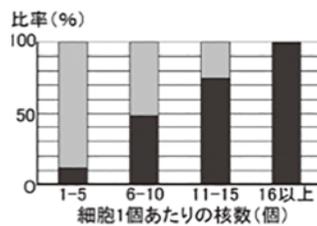
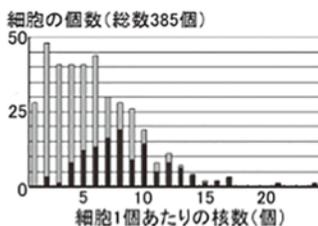
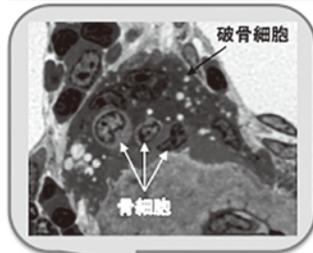
破骨細胞は、骨表面に存在し、骨を吸収する。一方、骨細胞は、骨基質中に存在し、多数の細胞突起を張り巡らせてネットワークを形成している。それゆえ、骨細胞が、吸収すべき骨の部位や深さを破骨細胞に伝達して、骨代謝を制御していると考えられてきた。しかしながら、破骨細胞－骨細胞間シグナリング機構については未だにほとんど解明されていない。それゆえ、私は、このシグナリング機構を解明することにより、骨粗鬆症などの骨代謝疾患の病態解明に寄与することを目標としてきた。

破骨細胞は、細胞融合により多核化し、機能活性を変化させる。そのため、私は破骨細胞の核数と機能の相関関係を解明することが、破骨細胞－骨細胞間シグナリング機構解明の糸口になると考えた。その結果、これまでに、破骨細胞は核数が多くなるほど骨細胞を取り込むことを証明した。さらに、驚くべきことに、取り込まれた骨細胞（吸収骨細胞）の中には intact なまま機能している細胞があることを発見した（下図参照）。これらの研究成果を踏まえて、『吸収骨細胞と破骨細胞の間に細胞間認識機構が存在し、破骨細胞は吸収骨細胞からの何らかのシグナルにより吸収すべき部位や深さの情報を認識している』可能性が高い、という仮説を着想した。現在、この仮説に基づき、(1)吸収骨細胞－破骨細胞間の細胞間認識機構を解明し、さらに(2)吸収骨細胞による破骨細胞性骨吸収の制御機構を解明することを目的とした研究を展開中である。

なお、これらの一連の研究は日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究(B)H15-17、H19、H22-24）の補助の下で行われ、第16回歯科基礎医学会賞（平成16年）を受賞している。

破骨細胞は核数が多くなるほど骨細胞を取り込みやすい

～核数依存的な破骨細胞－骨細胞認識機構が存在し、骨代謝制御に関与しているのか？～



■ 骨細胞を取り込んでいる破骨細胞(126個) □ 骨細胞を取り込んでいない破骨細胞(259個)

薬学部研究紹介

融合パートナー SPYMEG の利用はウイルス感染症を救える

生化学分野 教授 山本正雅

MBL（株式会社医学生物学研究所）はデング熱ウイルスに対する完全ヒト型モノクローナル抗体の作製に成功したと9月5日(土)付けのPress Releaseで発表した。翌週の8日の月曜日には、MBL株価はストップ高になり3日間続き、期待の大きさを物語る。この成功は元阪大微生物研究所生田和彦教授らのグループによる成果であるが、その背景には我々が開発したSPYMEG（スパイメグ）という融合パートナー細胞の利用があったからである。SPYMEGはマウスのSP2/Ag14細胞とヒトの細胞MEG-01細胞をY（山本）が融合させ作製した細胞でSPYMEGと命名した。

ウイルス感染を罹患した患者の血中から抗体産生リンパ球細胞を採り出し、SPYMEGと融合させると、ヒト抗体を産生し続ける細胞（ハイブリドーマ）を作り出すことができる。その培養上清から抗体を精製し、分子標的薬として治療に用いる技術である。得られる抗体は罹患者に発生していた抗体で完全ヒト型モノクローナル抗体である。この技術は広く医療に用いることができるが、とくに感染症を対象に分子標的薬としての抗体を開発できる。既に新型インフルエンザウイルスに対する抗体が作製されている。現在、世界で感染の広がりを見せている死亡率が高いエボラウイルス感染症にも、治療抗体の作製が可能であると考えられ、研究が望まれる。

## MDアンダーソンがんセンター臨床留学報告

2014年7月から米テキサス州にあるMDアンダーソンがんセンター (MDACC, The University of Texas MD Anderson Cancer Center) に臨床留学させて頂きました。ヒューストン郊外には3つの医学部、2つの薬学部、1つの歯学部を含め40超の病院や研究所が集まる世界最大の医療地域、Texas Medical Centerがあります。その中で最古、最大なのが世界一のがんセンターと称されるMDACCです。スローガン「Making Cancer History (がんを歴史にする、つまり、がんを過去のものにする)」には強い使命感を感じます。

今回、私は形成外科Dr. Matthew Hanasonoに招いて頂きました。手術室で過ごすことが多く、外側大腿皮弁、遊離腓骨移植、頸部郭清など約50例の手術に立ち会い、再建手技を中心に学びました。とりわけ、Fat graftingを用いた形態修正、3Dプリンターを用いた手術支援システムは非常に有益でいずれ導入できればと考えています。週1回は外来診療に参加しました。患者も医師もまるで友人のように再会を喜び、握手をして、時にはハグをしてから診察が始まります。毎週来院していた患者とはすっかり親しくなりSushiやKarateの話で盛り上がりました。患者の中にはMDACCのTシャツを着ている人も多く、ここで治療を受けていることに安心と誇りを感じているようでした。折角の機会ですので研究施設も覗いて来ました。大規模で充実した設備の下、活発に研究が行われていました。

この留学で幾つかの手術手技、知識、さらに今後の研究テーマを得ることができました。また、世界最先端がん治療の潮流を感じることもできました。これらを少しずつ日々の臨床、研究、そして教育に活かしております。最後に、御支援頂きました諸先生方、関係各位に心より感謝致します。

(口腔外科学講座 濱田智弘)



## 附属病院

### 平成26年度臨床教育力養成研修会

本年度の臨床教育力養成ワークショップは9月6日(土)、歯学部教員18名の参加により行われた。チーフタスクフォースの東京歯科大学の杉戸博記准教授と本学の清野晃孝准教授の主導のもと、例年実施しているKJ法に代わりワールドカフェにより「本学の臨床実習に大切なことは」をテーマにダイアログで良好な交流を行い、その後カリキュラムプランニングのプロダクトを作成、発表するなど有意義な研修であった。



### 臨床教育セミナー特別講演会

10月23日(木)、臨床教育セミナー特別講演会が開催され、奥羽大学歯学部同窓会専務理事であり、福島県中島村で開業されている吉田展也氏が講演した。演題は「地域医療を充実したライフワークとするために」。吉田氏は地域医療を通して実行してきた具体例と詳細なデータを示しながら、発奮したことにより行政や地域社会ともに成し得た経験について話した。研修歯科医のみならず教職員も熱心に聴講した。

### 日本接着歯学会卒後研修セミナー

11月6日(木)、本病院では初めてとなる日本接着歯学会卒後研修セミナーが臨床講義室で開催された。日本接着歯学会常任理事であり、東京都文京区で開業されている坪田有史氏を講師にお迎えし、「クラウンブリッジにおける歯科接着の活用-支台築造からメタルフリー補綴まで」と題して講演をしていただいた。

その中でファイバーポスト併用レジン支台築造について明解な原理原則を示され、支台築造における歯根破折の基本的対策および残存歯質量による原則的ガイドラインの説明があった。接着と咬合を十分に認識し、1歯の処置にこだわる臨床についての90分間の熱心な講演に参加者一同は引き込まれていた。

## 本学関係新聞記事案内(平成26年4月～11月)

(図書館調べ)

- 平26.4.2 **遺伝子の働きをコントロール** 薬学部の大島光宏教授が参画する国際研究チームが、遺伝子の活動を制御するスイッチ機能を、細胞ごとに特定化、DBとして公開した。研究成果は英科学誌「ネイチャー」に掲載された。「病気の予防、治療法に期待できる」と同教授は話す。(福島民報)
- 平26.4.2 **正常細胞をDB化** 大島光宏教授(奥羽大)が参加した国際研究チームは、遺伝子をコントロールするDNA配列を細胞ごとのDB化に成功した。大島教授は「病気の予防や治療に結び付くのではないか」としている。(福島民友)
- 平26.4.5 **奥羽大学入学式** 歯学部33人、薬学部123人入学 大学院歯学研究科にも13人が進んだ。(福島民報)
- 平26.4.5 **奥羽大学入学式** 北村、福和田さんが新生活の誓い。(福島民友)
- 平26.4.27 **「研究倫理」でセミナー** STAP細胞論文で社会問題化している研究者の不正などに関わる「研究倫理」について、この問題に詳しい愛知淑徳大人間情報学部の山崎茂明教授を講師に迎えてセミナーを開催。(福島民報)
- 平26.5.5 **歯周炎診断システムの開発** 薬学部の大島光宏教授は、歯周炎の人の唾液は正常の人より多くの肝細胞増殖因子が検出されることを発見。そのことから歯周炎を判断するシステムとマーカーの開発を、県内企業と組んでスタートさせた。(福島民友)
- 平26.5.9 **奥羽大で論文倫理セミナー** 講師の山崎教授は「大学の心臓である、公正さと社会からの信頼を保持することが重要」と話した。(福島民友)
- 平26.5.25 **薬剤師の仕事に挑戦** 奥羽大で児童らが職業体験。(福島民友)
- 平26.5.25 **歯医者さん体験** 奥羽大で児童ら進路選択へ初の講座。(福島民報)
- 平26.6.27 **若手研究者を表彰** 奥羽大は昨年度から研究奨励制度を設けた。本年度は9人の応募があり、審査の結果歯学部2人、薬学部1人が受賞。1人あたり100万円の研究費を助成する。(福島民友)
- 平26.7.28 **奥羽大でオープンキャンパス** 矯正歯科治療の授業など体験。(福島民友)
- 平26.8.13 **薬化学実習に興味** 奥羽大のオープンキャンパスで高校生ら。(福島民友)
- 平26.8.25 **奥羽大を理解** オープンキャンパスで赤川学長が説明。(福島民友)
- 平26.8.25 **教育内容に理解深める** 奥羽大でオープンキャンパス。(福島民報)
- 平26.9.13 **デング熱に効果** 全国でデング熱が広がる中、大阪大微生物病研究所など作製の完全ヒト型抗体に、奥羽大薬学部山本正雅(まさなお)教授らが開発した「SPYMEG」という細胞が使われた。同教授は「早期の製剤化に期待したい」と語る。(福島民報)
- 平26.9.25 **奥羽大、特待生制度新設** 6年間授業料免除。(日経産業新聞)
- 平26.10.7 **薬用植物の栽培研究** 奥羽大薬学部の伊藤徳家准教授は、漢方薬に配合される生薬「甘草」の国内栽培を研究。「薬用植物栽培の事業化」を目指す。(福島民友)
- 平26.10.15 **歯の正しい知識を** 奥羽大が公開講座。(福島民友)
- 平26.10.29 **奥羽大の魅力を紹介** 今年最後のオープンキャンパス。(福島民友)
- 平26.10.29 **漢方薬の脱・中国依存を探る** 薬用植物の国産化事業を推進している(株)カンナは、奥羽大学とカンゾウ(甘草)の国内栽培技術の開発に動きだした。(日本経済新聞)
- 平26.11.3 **エボラ熱想定で研修会** 花岡洋一教授(歯学部)が山形県警察歯科医会の研修会で指導。(山形新聞)
- 平26.11.6 **歯周炎の原因で新たな仮説を提唱** 歯周炎の発症・進展は細菌性プラークが重要な役割を果たしていると考えられていたが、大島光宏教授(薬学部)は全く異なる新たな仮説「原因はアグレッシブ線維芽細胞」を提唱。歯周炎治療にパラダイムシフトをもたらす可能性あり。(Medical Tribune)
- 平26.11.18 **奥羽大で歯学会** 歯周病治療開発など発表。(福島民友)
- 平26.11.18 **花岡氏が奥羽大法歯学の教授に**(日本歯科新聞)

## 新任教授紹介



歯学部  
生体構造学講座法歯学

教授 花岡洋一

本年11月1日付をもちまして  
法歯学教授を拝命致しました。  
昭和60年の日航機墜落事故以

降、歯科的個人識別の観点から法歯学の重要性が社会に認知されながらも、長年の間、全国29校の歯学部・歯科大学において、法歯学に関連する研究機関は関東の3講座、3研究室だけでした。この度、関東以外においては初の法歯学専任教授として奥羽大学にお招きを賜り、その責任の重大さに身の引き締まる思いしております。今後は33年間法歯学一筋に研鑽を積んで参りましたこれまでの経験を活かし、自身の研究テーマである個人識別、虐待防止、医事紛争を柱に、さらに法歯学の重要性と必要性を奥羽大学から発信して参る所存です。ご指導、ご鞭撻、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 同窓会だより

清本 真功 (九州連合支部 歯学部10期生)

9月20日(土)ホテルニューオータニ博多にて、歯学部同窓会九州連合支部創立30周年記念祝賀会を開催致しました。当日は本学より影山英之理事長、赤川安正学長、大野敬歯学部長、歯学部同窓会より渡辺友彦同窓会長、岡伸二同窓会顧問、角田哲同窓会顧問、鎌田政善九州人会顧問にご臨席いただき40名の出席でした。お忙しい中、遠方よりご臨席賜わり感謝申し上げます。

祝賀会開催に先立って、赤川学長を講師にお迎えして『特別講演：奥羽大学のチャレンジ「新しい歯科医療の価値を創る」』が行われ、ここ最近は何を聞いても何かと暗い歯科界にあつて本当に未来のあるお話で勇気づけられました。

記念写真撮影後の祝賀会では、影山理事長の大学創立時の懐かしく楽しいお話があり、九州連合支部30年の歩みでは、自分を含めて皆様の変り様をスライドを通して見る事ができて、笑いの絶えない貴重な時間となりました。最後は川村浩之支部長の30年間の労をねぎらい、サプライズ花束贈呈、続いて万歳三唱で締めくり、盛況の内に終わりました。30年間九州連合支部を支えてくださった川村先生に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

二次会にもほとんどの方にご出席いただき、御来賓の方々を囲み、昔話に花をさかせていました

私も福岡で開業して24年になりますが、支部の歯科医師会ではいまだに同窓の先輩・後輩はおりません。今回準備に携わっているうちに改めて見えてくるものもあり仕事をしていくうえで同窓会の見方や考え方も変わったように思えますし、九州連合支部の30年が改めて身にしみてきました。ここ2年、同窓会本部評議員会のお供をさせていただいておりますが、1期生の重さを感じております。見るもの聞くものすべてが勉強で不安もありますが、微力ながら母校を応援していきたいと思ひます。

## 同窓生のひろば



杉浦 信之助 (歯学部21期生)

同窓の皆様方におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、東日本大震災及び現在も進行中である原発事故に際し、被害にあわれた多くの方々には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

「同窓生のひろば」のお話をいただき執筆している現在、私のいる千葉も日ごとに寒さがまし、冬が近づくときおり、学生時代のことを思い出します。

郡山駅に下り立った時、見上げた澄み切った青い空。「ここでの生活もそう悪いものではないかもしれない」と予感をした瞬間でした。緑が豊富な落ち着いた環境で学生生活を過ごせたことは、自分の一生の中でも貴重な経験となったのです。また、与えられたその場所で一生懸命に物事をやり遂げることを学んだ場所、それが奥羽大学でした。

卒業後も様々な人に支えられ、現在は生まれ育った千葉県柏市で開業することができました。偶然にも、父の出身小学校の校医も務めさせて頂き、地元に着した歯科医院を目指し、奮闘する日々を送っております。

患者さんと向き合うこと、人と向き合うこと、症状と向き合うことで自分と向き合い、自分自身を少しでも高めたいと精進しています。時々、努力しても報われず、うまくいかないこともあります。そんな時、フツと思ひ出すのは在学中に先生や先輩方から頂いた、厳しくも暖かいお言葉の数々です。そのお言葉は、今の私の礎となり、大きな支えとなっております。

今後も艱難辛苦はありますが、与えられたこの場所で、一生懸命乗り越えてゆこうと思ひます。

池松 怜美 (薬学部1期生)

つれづれなるままに・・・

寄り道をしながら、社会人3年目の後半にさしかかった今日この頃ですが、働き始めてからこれまで、なんでもやってみよう!楽しもう!と満喫してきました。唐突ですが、一部をご紹介します☆

○スノーシュー

とても楽しい!!どこでも歩いていける快感と未開の地に分け入っていくエキサイティングがたまりません!そして、これからがシーズンです!!

○滝行

体験した人にしか分からない何かがある!!「おおかみ子どもの雨と雪」のモデルとなった家がある富山県上市町にあるので、観光ついでに是非体験を!メグスリノキのアイスや熟成そうめんも人気です。

○ジップライン

最近、巷でうわさのジップラインは、天候がよければ、もう最高に爽快です。富山県立山町のジップラインでは、県獣で特別天然記念物のカモシカにも会えてしまったりします!

○ナチュラリスト認定

自然解説員。今年度、富山県から認定もらったので、来年度から富山の自然解説業務を行います。是非聞きに来てくださいね♪

と、ちょこちょこ出てくる「富山県」が私の出身地です。現在は、富山県の厚生センター(保健所)で勤務し、公衆衛生全般を担っています。保健所に勤める公務員という仕事は、一般企業とは考え方もスタンスも違いますし、薬剤師らしいことは何ひとつしないのですが、とても面白い仕事です。

主な保健所業務として、飲食店営業や映画館、理美容所、薬局等の不特定多数の人が利用する施設の許認可・衛生監視指導を行ったりしています。皆さんがランチやディナーに赴くお店にも保健所職員が行っており、日々の衛生管理を見守っているのです。歯科医や薬剤師免許の申請、受取りも保健所を窓口としています。

これまでの仕事で大変興味深かったのが、「興行場」という許可に該当する映画館の施設基準です。映画館の床面積や定員によって、必要な便器の数、座るイスの面積、換気能力、照明の明るさにも基準が設けられています。世の中のどんなことにも、基準があると知り、モノへの見方が変わりました。

色々書き連ねましたが、様々な体験ができる富山県では、50歳以下の薬剤師を絶賛募集中です!調剤やMR、製薬業とはまた違う魅力のある行政薬

剤師にもぜひぜひ目を向けてみてください!

最近、私の好きな花。プリムラ・マラコイデス。

花言葉が「運命を開く」だそうです。毎日を楽しみながら、過ごしていきたいものですね。

人事

〈任用〉	花岡 洋一	教授	歯学部	11月1日付
〈退職〉	小磯 和夫	助教	歯学部	11月30日付

表紙の写真について

本学キャンパスの中央棟図書館西側にこの「ふれあいの像」は在る。母と子が、前方の滝を見ながらふれあっている。やすらぎを覚える風景だ。朝霧がたちこめたある秋の日、カメラにおさめてみた。幻想的な雰囲気醸し出している。彫刻の作者は山田良定氏。彼の作品にはこのほかに薬学部棟1階に「秋ふたり」(文部大臣賞受賞)、病院棟2階に「開幕の刻」(芸術院賞受賞)、正門守衛室横に「ジーンズの女」(第24回日展)が在る。ちょっと自慢したくなる豪華なキャンパス風景だ。

## 平成27年度入学試験日程

入試区分		募集人員	日 程				試験会場	
			出願期間	試験科目	試験日	合格者発表		
歯学部	一般選抜	一期	30名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・必須 英語(I・II) ・選択 「数学(I・II・A)」「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」の4科目のうち1科目を試験会場で選択	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学 仙台 東京 大阪
		二期	16名	H27.2.2(月)～H27.2.16(月)	・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程の範囲との共通部分から出題する	H27.2.18(水)	H27.2.20(金)	
	特待生選抜		30名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・必須 英語(I・II) ・必須 数学(I・II・A) ・選択 理科「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」3科目のうち1科目を試験会場で選択 ・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学
	編入学	随時	若干名	H26.9.8(月)～H27.3.20(金)	【2年次編入】 ・小論文・面接 【3～4年次編入】 ・学力試験・面接	願書受付後 日程調整のうえ 随時実施	試験実施後 3日以内	本学
薬学部	一般選抜	一期	40名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・選択 「英語(I・II)」「数学(I・II・A)」の2科目のうち1科目を試験会場で選択 ・選択 理科「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」3科目のうち1科目を試験会場で選択	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学 仙台 東京
		二期	20名	H27.2.2(月)～H27.2.16(月)	・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程の範囲との共通部分から出題する	H27.2.18(水)	H27.2.20(金)	
	特待生選抜		30名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・必須 英語(I・II) ・必須 数学(I・II・A) ・必須 理科「化学基礎・化学」 ・選択 理科「物理基礎・物理」「生物基礎・生物」2科目のうち1科目を試験会場で選択 ・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学
	編入学	随時	若干名	H26.9.8(月)～H27.3.20(金)	【2年次編入】 ・小論文・面接	願書受付後 日程調整のうえ 随時実施	試験実施後 3日以内	本学

奥羽大学報144号(通算No.269)平成26年12月1日発行  
 発行 奥羽大学  
 学報編集委員会  
 委員長 赤川 安正

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1  
 電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372  
 ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>  
 メールアドレス [info@ohu-u.ac.jp](mailto:info@ohu-u.ac.jp)

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。